

高知大学 農林海洋科学部

設置の趣旨等を記載した書類

【 資 料 目 次 】

- 資料 1 : 第 4 期高知県産業振興計画 ver. 3 PR パンフレット ダイジェスト版 (抜粋)
- 資料 2 : 高知大学農林海洋科学部設置構想の概要
- 資料 3 : 学部・学科の概要と 3 つのポリシー
- 資料 4 : 農林海洋科学部の 4 つの教育プログラムの概要
- 資料 5 : 「次世代農業教育プログラム」の概要
- 資料 6 : 「総合的海洋管理教育プログラム」の概要
- 資料 7 : 農林資源科学科の特色と教育課程
- 資料 8 : 海洋資源科学科の特色と教育課程
- 資料 9 : 授業時間割
- 資料 10 : 履修モデル
- 資料 11 : 第 3 年次編入学生の単位認定について (案)
- 資料 12 : 3 年次編入学生に係る単位読み替え表
- 資料 13 : 3 年次編入学者の履修モデル
- 資料 14 : インターンシップ (技術・技能)・インターンシップ (実践力) 受入機関一覧
- 資料 15 : 地域協働インターンシップ受入機関一覧
- 資料 16 : 国立大学法人高知大学職員の定年規則

第 4 期

高知県産業振興計画

PR版パンフレット

ver.3

令和4年度版



共感と
前進



PR版パンフレットの構成

新型コロナウイルス感染症による経済影響対策

1 新型コロナウイルス感染症による経済影響対策

2

- 県経済へのダメージを最小限に食い止めることができるよう、3つの局面に応じた取り組みを展開

高知県産業振興計画とは

2 人口減少の負のスパイラルに陥った高知県経済（計画策定の背景）

3~4

- 全国に先駆けて人口減少・高齢化社会に突入した高知県
- 人口減少の負のスパイラルのダメージが県経済の様々な面に表れる

3 人口減少の負のスパイラルの克服に向けた高知県の取り組み



5~6

- 第2期高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成

4 産業振興計画の基本的な考え方

7~8

I 産業振興計画とは

- 高知県の経済を根本から元気にするためのトータルプランとして「産業振興計画」を策定し、平成21年度からスタート
- 戦略の柱：「地産外商」の推進
- 目指す将来像：「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」

II 「地産外商」を推進する上でのポイント

III 第4期産業振興計画の政策体系

IV 産業振興計画の策定・実行に当たっての3つのポイント

5 高知県経済の状況

9~12

- 各産業分野における産出額等の推移

令和4年度の取り組み

6 目指す将来像の実現に向けた取り組みの方向性と重点ポイント

13~16

7 産業振興計画の取り組みを検証するための数値目標

17~18

8 第4期産業振興計画ver.3の全体像

19~20

9 産業成長戦略の各分野の取り組み

21~40

- 農業分野、林業分野、水産業分野、商工業分野、観光分野

10 連携テーマの取り組み

41~80

- デジタル化の促進、グリーン化の促進、グローバル化の促進、外商活動の全国展開、担い手の育成・確保

11 地域アクションプランの取り組み

81~84

- 各地域の主な取り組みと成果

参考資料

12 相談窓口一覧

85~86

6

目指す将来像の実現に向けた取り組みの方向性と

本県経済を再び成長軌道に乗せ、目指す

〔目指す将来像：地産外商が進み、地域

まだなお残る課題

課題 1

県民所得などの伸びは全国を上回るものの、依然全国の絶対水準を下回る

出典：高知県「産業連関表（平成27年、23年、17年）」 高知県「県民経済計算報告書（平成30年度）」

経済指標（主なもの）		全国	高知県	
1人当たり 県民所得	R元年度	318.1万円 (H23比+13.7%)	266.3万円 (H23比+17.8%)	全国の83.7%
	H23年度	279.8万円	226.1万円	全国の80.8%
労働生産性 (県内総生産額 /就業者数)	R元年度	813.1万円 (H23比+6.0%)	693.9万円 (H23比+14.2%)	全国の85.3%
	H23年度	766.9万円	607.4万円	全国の79.2%
県際収支		H27年:△5,930億円 H23年:△6,512億円 H17年:△6,678億円		

課題 2

○ 人口の社
…「人口の

課題 3

○ 有効求人
H20年度

第4期産業振興計画

付加価値や労働生産性の高い産業を育む

上記2つの戦略の方向性のもと、「5つの重点ポイント」を踏まえ、県政浮揚に向けた取り組みを展開

重点ポイント

ポイント① 経済成長の原動力となるデジタル化・グリーン化・グローバル化など
産学官民連携によるイノベーションの創出

ポイント② 関西圏との経済連携の充実強化

ポイント③ 輸出を見据えた地産外商のさらなる推進

ポイント④ 「新しいひとの流れ」を捉えた中山間地域の振興

ポイント⑤ SDGsの広がりによる持続可能な地域社会づくり

次の7つの基本方向に基づき、

1

地産の強化！

<基本方向1> 「新たな付加価値の創造を促す仕組み」の構築



<基本方向2> 事業化

3 成長を支える

<基本方向5> 人材の育成

<基本方向6> 担い手の

重点ポイント

将来像を実現するために乗り越えるべき課題

地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県]

一定の改善傾向にはあるものの、
若者を中心に県外流出が続く

出典：高知県「高知県の推計人口」

会増減 ▲1,845人(R3年度)※
社会増減の均衡」という高い目標の
実現に向けては、まだ道半ば

人手不足や後継者不足は、
深刻化している

出典：厚生労働省「一般職業紹介状況」

倍率
: 0.46倍 ⇒ R3年度: 1.11倍 ※
※ これまでの推移は、P4、5グラフ参照

新型コロナウイルス感染症の長期化による県経済への影響

- **県経済へのダメージを最小限に食い止めるための対策強化が必要**
 - ・ 「事業の継続と雇用の維持」や「経済活動の回復」に向けた対策
- **社会・経済構造の変化への対応を重視した、一歩先を見据えた対策強化が必要**
 - ・ ウイズコロナにおける「新しい生活様式」や、アフターコロナを見据えた「社会・経済構造の変化」への対応
 - ・ コロナ禍を契機とした「都会から地方へ」という「新しいひとの流れ」の本県への呼び込み

戦略の方向性

ウィズコロナ・アフターコロナ時代への対応

左記のポイントを踏まえ、連携テーマを見直し

農業分野	林業分野	水産業分野	商工業分野	観光分野	連携テーマのプロジェクト化を図る 既存の連携テーマの取り組み についても、一部継続 (移住、起業・新事業展開 等)	地域A P
① デジタル化の促進					IoP推進PJ 等	
② グリーン化の促進					プラスチック代替素材活用PJ 等	
③ グローバル化の促進					土佐酒輸出拡大PJ 等	
④ 外商活動の全国展開					関西・高知経済連携強化戦略 等	
⑤ 担い手の育成・確保					移住促進、起業・新事業展開 等	

強化した施策を総合的に展開

2

外商の強化！

支援

＜基本方向3＞外商活動の全国展開

＜基本方向4＞輸出の振興

取り組みを強化！

確保

＜基本方向7＞働き方改革の推進と労働生産性の向上

経済成長の原動力となるデジタル化・グリーン化・グローバル化など 産学官民連携によるイノベーションの創出

ポイント 1

新たな時代の経済成長の原動力となる「デジタル化」、「グリーン化」、「グローバル化」といった視点から、各分野の取り組みを強化することに加え、県内外から多くの人材や知恵、資本などを呼び込むことで、産学官民が連携した新たなイノベーションを創出します。

デジタル化の促進

- 農業** ■ 「IoTクラウド」に集積したデータを営農支援に生かす**データ駆動型農業**など、**Next次世代型こうち新施設園芸システム**を推進 など
- 林業** ■ 森林情報のデジタル化など、ICTなどを活用した**スマート林業**を推進 など
- 水産業** ■ 漁業の操業の効率化を支援するツールの開発など、「**高知マリンイノベーション**」を推進 など
- 商工業** ■ 県内企業の**デジタル技術**を活用した取り組みに対する支援を強化 など
- その他** ■ 産学官民連携により、**ヘルスケアイノベーション**の創出や**アニメ産業**の集積を通じて、**雇用の創出**や**地域の活性化**を促進 など



グリーン化の促進

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、**環境負荷を低減する生産設備の導入**や**グリーン化**をテーマとした**新たなビジネス創出**の支援 など
- グリーン化につながる**新たな産業の創出**に向けた、**各産業分野の関係機関が連携したプロジェクト**を推進 など

グローバル化の促進

- 輸出の拡大に向け、**輸出先国のニーズ**を捉えた**生産態勢の強化**や**商品開発**、**販路拡大**を支援するほか、**海外支援拠点**を活用した**外商活動**を推進 など
- 海外からの観光客の需要回復を見据えた、**プロモーション**や**セールス活動**を展開 など



ポイント 2

関西圏との経済連携の充実強化

関西圏の経済活力を本県経済の活性化につなげるため、「**関西・高知経済連携強化戦略**」の3つのプロジェクトに基づく取り組みをさらに強化します。

観光推進プロジェクト

- 「食」を前面に出した「**リョーマの休日**」キャンペーンを展開するほか、大阪の都市型観光と高知の自然・体験型観光を生かした誘客を促進

食品等外商拡大プロジェクト

- 卸売市場関係者と連携した販売促進、県産材の情報発信拠点の設置などを進めるとともに、新たに設置した「**関西圏外商強化対策協議会**」での議論を踏まえ、**各分野の外商活動**をさらに強化

万博・IR連携プロジェクト

- 大阪・関西万博に向け、**県産品**などの**外商活動**を強化するほか、**万博会場**を活用した**効果的な情報発信**を推進



計画の重点ポイント

ポイント 3

輸出を見据えた地産外商のさらなる推進

県外・海外とのネットワークやニーズを捉えた商品開発など地産のさらなる強化を進め、輸出を見据えた県産品の外商活動を強化します。

食品

- 米国、欧州、中国での販路拡大に向けたプロモーションの実施 など

ものづくり

- 産業振興センターを中心にJICAやジェトロ等と連携した販路開拓の促進 など

林業

- 海外市場に向けた県産材製品の生産・輸出体制の整備、販路開拓の促進 など



ポイント 4

「新しいひとの流れ」を捉えた中山間地域の振興

コロナ禍を契機とした「新しいひとの流れ」を本県に着実に呼び込むため、移住施策を強化するとともに、デジタル技術を活用した地域の生活支援を強化することで、中山間地域の振興につなげます。

移住

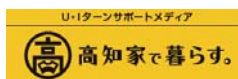
- 移住希望者の傾向を踏まえた戦略的なイベント体系の構築、魅力的な仕事の掘り起こしや住宅確保策の抜本強化 など

商工業

- IT・コンテンツ関連産業の集積に向け、シェアオフィスを活用した企業誘致やWeb等による非接触型の情報発信を促進 など

農業・林業・水産業

- 「新しいひとの流れ」を担い手確保につなげるため、オンラインを活用したPRを実施 など



ポイント 5

SDGsの広がりによる持続可能な地域社会づくり

県内事業者のSDGs達成に向けた取り組みを推進していくほか、サステナブル（持続可能な）観光の取り組みなどを強化します。

県内事業者のSDGs達成に向けた取り組み

- 企業活動を通じてSDGsの達成に意欲的に取り組む県内事業者を登録・PR
- 「企業価値の向上」や「多様な人材確保」、「新たなビジネスチャンスの獲得」などに向け、SDGs達成に向けた取り組みを進める事業者に対して、SDGsに関するアドバイザーを派遣 など

観光

- 「地域社会の持続的発展を目指す観光」に対応する視点から、県内における意識醸成や商品造成、県内外への情報発信に取り組み、本県の「サステナブルツーリズム」の確立を目指す など



KOCHI SDGs

持続可能な開発目標（SDGs）とは

「持続可能な開発目標」（SDGs/Sustainable Development Goals）とは、持続可能な社会の実現のため、2030年までの目標を国連が定めたものです。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



設置の趣旨・必要性

○一次産業の高度化やDigital Transformation

- ・次世代型高知新施設芸システムの推進やNext次世代型高知新施設芸システムの開発（第4期高知県産業振興計画）
- ・スマート林業や畜産の振興、「高知マリノインノベーション」等の施策の展開（第4期高知県産業振興計画）
- ・「海洋ビッグデータ」の活用」（第3期海洋基本計画）等に対応できる海洋科学分野での教育課程の編成

○IoP事業の「地域連携プラットフォーム」での課題

- ・「IoP (Internet of Plants) が導くNext次世代施設芸農業への進化」の成果をベースとした高度な農業人材の育成
- ・IoP事業の成果をベースとして、施設芸にとどまらず、一次産業（農林水産業）全体にわたる人材育成への発展・普及
- ・一次産業の強みを高知県内の他産業につなげることができ、産業界人材、経営人材の必要性

○H28農林海洋学部設置以降の新たな課題

- ・スマート農業や一次産業のDX実現に向けては、農学・農芸化学の総合的・分野横断的な知識等が不可欠
- ・地域の将来を担う農学・海洋科学人材の地域社会への輩出の仕組み（地域の実業高校からの高大接続・農業大学校等からの接続）の必要性

データサイエンス教育や6次産業化教育を導入を改革の軸とした学科再編による新しい農林海洋学部を構築（R5年度）

改革のポイントと
養成する人材像
(入学定員：200人)

- ①一次産業のDXの推進に対応できる体系的なデータサイエンス教育の展開
- ②農学・農芸化学の両分野を横断した総合的な「農林資源科学科」の構築（3学科 → 2学科）
- ③「IoPが導くNext次世代施設芸農業への進化」を基盤とした教育プログラムの編成
- ④他産業への波及を見据えた6次産業化教育や地域社会と連携したキャリア教育の展開
- ⑤1次産業を基幹産業とする高知県での人材育成・輩出を踏まえ入学定員の充実
- ⑥地域のニーズに合致した人材育成や人材定着に繋がる入試改革（地域枠・3年次編入）
- ⑦地域社会やステークホルダーを交えた外部評価委員会の設置

【養成する人材像】

農学・海洋科学の諸分野から、持続的社会的創造を志し、一次産業のDXに資するデータサイエンスの知識や農林海洋資源の持続的開発・利用や環境保全等の諸課題に対応できる豊かな知識・素養と技能、実践力を併せもった人材

学科の編成と
学部・学科共通科目
(DS・DX科目)

【趣旨・目的】
一次産業のDX実現に向け必要とされる基盤的な情報科学や数理・データサイエンスに係る知識を体系的に身に付けさせるとともに、演習を通じて実践力を涵養する。

学部共通科目：「一次産業DX概論」「スマート農業Ⅰ」「スマート農業Ⅱ」「大学数学入門」「基礎統計学」
農林資源科学科：「暖地農学分野」「施設生産学概論」(ほか9科目)、「環境安全分野」「動物生態学」(ほか7科目)、
農芸化学分野「土壌学」(ほか7科目)、「発展科目」「地理空間情報学・演習」(ほか4科目)、
AIプログラムミング科目「データサイエンスの微分・積分」(ほか3科目)
海洋資源科学科：ICOM科目DS・DX関連科目「海洋科学概論」(ほか7科目)

農林資源科学科 (入学定員：135人 学位：学士 (農学))

【改革のポイント】
・農学・農芸化学の両分野を横断した科目群の設置
・IoP事業の成果を基盤とした「次世代農業教育プログラム」などデータサイエンスの充実
・地域社会と連携したキャリア教育の展開・6次産業化に繋がる教育の展開

【養成する人材像】
農林業に関わるフィールド科学または農芸化学に関する専門的な知識、並びに農林業に関わるデータサイエンスやDXの知識を併せもった持続的資源開発・利用、環境保全等の諸課題や6次産業化に対応できる実践力のある専門人材

【カリキュラムの特色】
データサイエンス、一次産業DXやスマート農業、経営・マーケティングをキーワードに教育課程を編成し、農林資源の持続的資源開発・利用や環境保全に不可欠な知識や手法など、フィールド科学、農芸化学に係る専門的知識や6次産業化のための知識を持った人材を育成する。

【卒業生の進路】
企業（農業資材メーカー、農機具メーカー、農業関連企業、化学メーカー、土木・建設業）、就農・農業法人、農林業系団体、農学系公務員、試験研究機関、学校教員（理科・農学）、大学院進学等

次世代農業教育プログラム (EPSA)
【趣旨・目的】
スマート農業、一次産業のDXの実現に向けて、産業のデータ駆動型DXを牽引できる農学・情報工学・農芸化学の連携による次世代型農業に精通した人材を育成する
【代表的な科目名】
・IoP総論
・スマート農業Ⅰ・Ⅱ
・農業インターンシップ

海洋資源科学科 (入学定員：65人 学位：学士 (海洋科学))

【改革のポイント】
・海洋に関するデータサイエンス教育科目の導入・配置
・「総合的海洋管理教育」プログラムの展開・充実

【養成する人材像】
海洋資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、俯瞰的に問題を分析し実際に行動し解決できる能力を有するとともに、海洋生物生産、海底資源環境又は海洋生命科学に関する専門的な知識を併せもった海洋資源管理に長けた実践力のある海洋専門人材

【カリキュラムの特色】
海洋生物生産学・海底資源環境学・海洋生命科学に関する専門科目を体系的に修得するとともに、学科共通科目として、データサイエンス教育及び総合的海洋管理学関連科目を履修することで、一次産業DX及び資源管理・海洋政策等に精通した海洋専門人材を育成する。

【卒業生の進路】
企業（環境アセスメント業、養殖業、化学・医薬系企業）資源系コンサルタント、地質・建設系コンサルタント、海のレジャー・観光業、水族館職員、公務員、試験研究機関、学校教員（理科・水産）、大学院進学等

総合的海洋管理教育プログラム (ICOM)
【趣旨・目的】
海洋資源とそれを取り巻く海洋環境を適切に維持・管理していくための基礎的知識や社会科学の知識を有する国際的な「総合的海洋管理」の視野を持った人材を育成する
【代表的な科目名】
・海洋科学概論
・水産資源学
・海洋管理政策論

設置の趣旨・必要性

- スマート農業等の急速な発展への対応
- 一次産業（農林水産業）のDigital Transformation（DX）の実現
- スマート農業や一次産業のDXの実現に向けた、農学・農芸化学の分野横断的な知識等の必要性
- IoT事業の成果に基づき、先端的な農学人材の育成



養成する人材像

農学・海洋科学の諸分野から、持続的社会的創造を志し、一次産業のDXに資するデータサイエンスの知識や農林海洋資源の持続的開発・利用や環境保全等の諸課題に対応できる豊かな知識・素養と技能、実践力を併せもった人材

アドミッション・ポリシー

- 【知識・技能】
1. 農林海洋科学分野の専門知識と技能修得や一次産業のDXに資するデータサイエンスに関する専門的な知識を修得するために必要となる、高等学校卒業程度の科学学習に関する知識・技能を有する。
- 【思考力・判断力・表現力】
1. 物事を客観的にとらえることができる。
 2. 得られた知識及びデータに基づいて科学的・論理的思考ができる。
 3. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現することができる。
- 【主体性・多様性・協働性】
1. さまざまな分野の多様な人々と意見交換ができる。
 2. 主体的に学ぶことができる。
 3. チームの一員として積極的に活動することができる。
- 【関心・意欲】
1. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。
 2. 農林海洋科学分野、データサイエンス及び一次産業のDXに関心を持ち、それらを利用して地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、1年次の「課題探究実践セミナー（ワールドサイエンス実習）」（共通教育科目）により農林海洋科学部の諸分野の内容や魅力を伝えた上で、学部共通科目及び学科共通科目の「DS・DX科目」や、学科・コース独自の専門分野の講義・実験・実習科目からなるさまざまな「専門科目」、「卒業科目」などで編成する。

- 【教育方法】
- DS・DX科目
 - 学部共通科目及び学科共通科目の「DS・DX科目」を受講させ、データサイエンスや一次産業のDXに必要な知識を修得させる。
 - 専門科目
 - 農林海洋科学諸分野の専門科目を受講させる。両学科ともにコース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を習得できる。
 - 必修の専門科目である「卒業論文」において、研究者倫理に関する授業を実施し、高い倫理意識のもとに、他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【教育プログラム】
 学部プログラムとして、「SUJUI」（共通教育）及び「農山漁村地域連携教育」の2つのプログラムを設置し、国際的・地域的視野とワールドワーク能力を涵養する。学科プログラムとして、農林資源科学科では「次世代農業教育プログラム」を、海洋資源科学科では「総合的海洋管理」教育プログラム」を設け、専門領域の知識・技術の深化を図る。

【学修評価とカリキュラム評価】
 学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。学生や卒業生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】
 農林海洋科学に関する自己の専門分野及び一次産業のDXについての知識や技能を修得するとともに、データサイエンスの重要性を深く理解し、自己の分野と他分野を結びつけ、地域社会や国際社会が抱える食料・資源・環境問題や一次産業の発展に資する知識や技能を修得し、幅広い視点から地域・国際社会に貢献できる。

【思考・判断】
 自己の知識により、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握・分析し、課題の本質を正確に把握・分析し、自身の専門分野のみならず、関連する他分野とも連携して、それらの知識や技能を取り入れながら、好奇心を持って課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】
 卒業論文研究の内容を的確な分析手法で解析し、明確に発表でき、他者の発表内容についても関心を持ち、積極的に議論に参加できる。

【関心・意欲・態度】
 一次産業のDXやスマート化、食料問題や環境保全に高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、周辺分野と協働することで、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。豊かな俯瞰力・企画力・探求力・分析力を持つ高度人材として、社会に対して負うべき責任を理解する健全な倫理観・自然観と幅広い視野を持ち、地域社会や国際社会における食料・資源・環境問題の解決や一次産業の発展に向けて行動することができる。

【統合・働きかけ】
 農学・海洋科学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産に向けた提案をすることができる。農林海洋資源の持続的開発・利用や環境保全について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

設置の趣旨・必要性

- スマート農林業の急速な発展への対応
- 農林業のDigital Transformation (DX) の実現
- 農林業のDXや先端的生物生産・利用、環境保全に向けた、農学・農芸化学の分野横断的な知識等の必要性
- IoT事業の成果に基づき、先端的な農学人材の育成

農林資源の有効活用による持続的社會の創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、農林業に関わるフィールド科学または農芸化学に関する専門的な知識、並びに農林業に関わるデータサイエンスやDXの知識を併せもった持続的資源開発・利用、環境保全等の諸課題や6次産業化に対応できる実践力のある専門人材

養成する人材像

アドミッション・ポリシー

- 【知識・技能】**
1. 農学分野の専門知識と技能修得や一次産業のDXに資するデータサイエンスに関する専門的な知識を修得するために必要となる、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。
 - 【思考力・判断力・表現力】
 1. 物事を客観的にとらえることができる。
 2. 得られた知識及びデータに基づいて科学的・論理的思考ができる。
 3. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現することができる。
- 【主体性・多様性・協働性】**
1. さまざまな人と意見交換ができる。
 2. 主体的に学ぶことができる。
 3. チームの一員として積極的に活動することができる。
- 【関心・意欲】**
1. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。
 2. DXやスマート化、先端的生物生産・利用、生産基盤の環境保全の様々な問題について高い関心を持ち、地域の課題を率先的に学び、解決に導く意欲がある。
 3. データサイエンスに関する専門的な知識を修得し、地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行う意欲がある。

- 入学定員全体の設定の考え方
 フィールド科学コース90人・農芸化学コース45人の計135人
- 学校推薦型選抜 I 30名、総合型選抜 I 20名、一般選抜(前期) 80名、一般選抜(後期) 20名で募集を行う。
 - 地域枠(高知県枠)として15名(総合型選抜5名・学校推薦型選抜10名)を置く。
 - 3年次編入学試験(定員2名)として地域志向枠(高知県・農芸分野)を設置する。

カリキュラム・ポリシー

- 【教育内容】**
 教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、データ教育を行う学科共通の「DS・DX科目」、専門分野の講義・実験・実習科目からなるさまざまな専門科目、キャリア形成のための「キャリア形成科目」などで編成する。
- 【教育方法】**
- DS・DX科目
 - 学科全体としてデータサイエンスと一次産業のDXに必要な知識を修得できる。
 - 学科共通科目
 - 両コース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。
 - 専門科目
 - 農林資源科学の諸分野の専門科目を受講させることにより、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。
 - 経営・マーケティング科目
 - 農業経営やマーケティング分野の専門科目を受講させることにより、農林生産物の6次産業化のための基盤的知識を修得できる。
 - キャリア形成科目
 - 高知県内の試験研究機関、農業協同組合(JA)、篤農家や農業法人等の実務者を講師とするキャリア形成科目により学生の興味・関心を引き出すとともに、「インターンシップ(技術・技能)」と「インターンシップ(実践力)」にて現場力を涵養する。
- 【教育プログラム】**
 学科プログラムとして「次世代農業教育プログラム」を設定し、一次産業DX教育で得られた専門領域の知識・技術の深化を図る。
- 【学修評価とカリキュラム評価】**
 学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。在学生や修了生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

ディプロマ・ポリシー

- 【知識・理解】**
 農学に関する自己の専門分野及び一次産業のDXについて最先端の知識や技能を修得するとともに、データサイエンスを深く理解し、自己の分野と他分野を関連づけ、地域社会や国際社会の先端的生物生産・利用、環境保全や地域産業の発展に資する知識や技能を修得し、幅広い視点から地域・国際社会に貢献できる。
- 【思考・判断】**
 自己の知識により、データに対する論理的考察により問題の本質を把握・分析・判断し、自身の専門分野のみならず、関連する他分野の知識や技能を有機的に取り入れながら、好奇心を持って課題解決に取り組みることができる。
- 【技能・表現】**
 卒業論文研究の内容をデータサイエンスなどの手法で解析し、科学的に明瞭に発表できるうえ、他者の発表内容についても関心を持ち、積極的に議論に参加できる。
- 【関心・意欲・態度】**
 農林業のDXや生物生産・利用のスマート化、食料・資源・環境問題の解決や地域産業の発展に高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、関連学問分野を活用することで、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。豊かな俯瞰力・高い企画力・深い探求力・鋭い分析力を持つ高度な人材として、社会に対して負うべき責任を理解する健全な倫理観・自然観を持ち、地域社会や国際社会における農林業のDXや先端的生物生産・利用、環境保全の発展に向けて行動することができる。
- 【統合・働きかけ】**
 農学・林業及び農芸化学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産・6次産業化に向けた提案をすることができ、農業・林業の生産環境の整備とその利用並びに生物生産物の利用について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

設置の趣旨・必要性

- 第3次海洋基本計画～新たな海洋立国への挑戦～
海洋人材の育成と国民の理解の推進、海洋の産業利用の促進、海洋環境の維持保全
- 高知県の地域課題、解決に向けた政策等（高知県産業振興計画）への貢献
- 国内唯一の海洋・水産系学科として、イノベーション力の強化による付加価値や労働生産性の高い海洋関連産業の育成に資する人材育成



養成する人材像

海洋資源の有効活用による持続的社會の創造を志し、俯瞰的に問題を分析し、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し解決できる能力を有するとともに、海洋生物生産、海底資源環境、または海洋生命科学に関する専門的な知識、並びに海洋科学のDXに資するデータサイエンスの知識を併せもった海洋資源管理に長けた実践力のある海洋専門人材

アドミッション・ポリシー

- 【知識・技能】**
1. 専門的知識の修得に必要な、高等学校卒業程度の教科学習に関する知識・技能を有する。
- 【思考力・判断力・表現力】**
1. 「海洋資源」および「海洋資源管理」に関する諸問題や疑問となることを理解し、解決策を探索するうえで必要となる論理的思考力、読解力を有する。
 2. 言語や数式を使って、自らの思考を適切に表現する基礎を身につけている。
- 【主体性・多様性・協働性】**
1. 「海洋資源」および「海洋資源管理」に関心を持ち、地域社会及び国際社会に役立つ研究・開発を行いたいと考えている。
 2. 本学の教育研究環境を最大限活用して、自ら主体的に学び、成長しようという意志を持ち、多様な人々と協働しながら学ぶことで知を深めていこうとする能動的な姿勢を持っている。
- 【関心・意欲】**
1. 専門分野の修得について強い関心と意欲を持っている。

カリキュラム・ポリシー

【教育内容】
教育課程は、ディプロマ・ポリシーへの到達を目的に、学科共通科目と各コース専門科目をおく。学科共通科目は、総合的海洋管理について学ぶ「ICOM（総合的海洋管理教育プログラム）科目」、「学科共通科目」で編成し、「ICOM科目」は、「基礎科目」と「応用科目」に区分する。また、両科目中にデータサイエンス教育を行う「DS・DX関連科目」を配置する。各コース専門科目は、各コースの専門分野の講義・実験・実習科目から編成され、さらに各コースの科目のもと、応用科目、発展科目を配置する。

【教育方法】

- 総合的海洋管理（ICOM）教育プログラム 科目
データサイエンスや一次産業DXを含む総合的海洋管理のための知識・技能及び一次産業を含む海洋科学分野のDXに必要なデータサイエンスの知識を修得させる。基礎科目、基盤科目（DS・DX関連科目）、応用科目、応用科目（DS・DX関連科目）に区分する。
- 共通科目
コース横断的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得できる。基盤科目と応用科目に区分する。
- コース別専門科目
学科共通の基盤科目と応用科目により専門性の向上及び幅広い知識を修得する。それを経て、各コースの応用科目と発展科目を受講させる。
- 卒業論文
必修の専門科目である「卒業論文」において、他者とのコミュニケーション能力を涵養するとともに、研究者倫理を教授し、高い倫理観を育成する。

【教育プログラム】

学科プログラムとして、「総合的海洋管理教育プログラム」を設定し、「海洋資源」及び「海洋環境」をキーワードとした分野横断的な教育を実施することで、海を「知り、使い、そして護る」ために、生物・非生物を含めた「海洋資源」を様々な側面から扱うことのできる人材育成を行う。

【学修評価とカリキュラム評価】

学修は、試験や演習・実験・実習等の成績により評価する。在学生や卒業生へのアンケート結果を参照しつつ、カリキュラム評価を実施し、改善を行う。

ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】
「海洋資源」の問題について、多面的な視点から理解することができ、知識と技術を有している。海洋資源管理に不可欠な知識や手法を身に付けている。またデータサイエンスに関わる基礎的知識を持ち、それぞれの専門分野の知識との融合を通じて、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できる。

【思考・判断】

海洋資源の有効活用による持続的社會の創造を志し、「海洋資源」及び「海洋資源管理」に関する諸問題を俯瞰的に分析しながら、データに基づく論理的考察により問題の本質を把握し、実際に行動し課題解決に取り組むことができる。

【技能・表現】

日本語による表現力、英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を修得しており、他者に分かり易く伝えることができる。異なる意見にも配慮した問題解決に必要な能力として、合意形成に関する知識を活用できる技術を有している。得られたデータを効果的に集約し解析するため「データサイエンス」に関する技術を修得しており、「海洋資源」に関して生物学、化学、地学、物理学の分野から多面的にみることができ、それらを題材とし実験・実習・課題研究等を通して、問題発見、計画の立案、成果を提示することができる。

【関心・意欲・態度】

「海洋資源」及び「海洋資源管理」に関する理解と利用について強い関心と意欲を持っている。また海洋科学のDXに高い関心を持ち、専門分野の知識を深く理解した上で、関連学問分野を活用することで、課題解決に高い意欲をもって取り組むことができる。地域社会及び国際社会のなかでの技術者や研究者の責任と役割を自覚し、積極的に行動できる。

【統合・働きかけ】

海洋資源科学に関わる技術者・研究者として、持続可能な生産に向けた提案をすることができる。海洋資源及び海洋資源管理について、関係する人々と協力して改善していくことができる。

入学定員設定の考え方・入試の考え方

- 学校推薦型選抜：コース別で行い、大学入学共通テストと個別試験（面接）を課す学校推薦型選抜Ⅱで募集する。計17名。
- 一般選抜（前期日程）：コース別で行い、その募集人員は、3コース合計41名とする。
- 一般選抜（後期日程）：学科一括入試を行い、その募集人員は、7名とする。

高知大学農林海洋科学部の4つの教育プログラムの概要

学部共通プログラム

Six University Initiative Japan Indonesia (SUIJI) プログラム

【概要】日本とインドネシアの6大学により共同実施する。四国とインドネシアの農山漁村地域に双方向で滞在し、フィールドワークとディスカッションを通じて、両国に共通する課題や可能性を学ぶ。ローカルとグローバルの双方の視点から、未来社会の持続的発展に貢献できるサブトリーダーの養成を目指す。希望学生を対象とする。

【科目】フィールドワーク入門演習、カルチャージェアリング、ベリック国際サービスマスターニング、ベリック海外サービスマスターニング、アドバンスド国内サービスマスターニング、アドバンスド海外サービスマスターニング

農山漁村地域連携教育プログラム

【概要】学部で学ぶ専門的な知識や技能を備えるだけでなく、農山漁村の多様性を理解し、多角的かつ広い視点で地域の諸課題を捉えることにより、解決への方策を考えることができる人材を育成する。希望学生を対象とする。

【科目】フィールドワーク入門演習、農山漁村地域社会論、農山漁村地域実習Ⅰ、農山村資源利用論、森林環境政策学、農業経営学、中山間地域実習、農山漁村地域実習Ⅱ～Ⅳ、インターンシップ（技術・技能）、インターンシップ（実践力）、地域協働インターンシップ、SUIJIベリック国内サービスマスターニング（修了要件：7単位以上）

学科別プログラム

農林資源科学科：次世代農業教育プログラム（EPSA）

【概要】「IoT（Internet of Plants）」が導くNext次世代型施設園芸農業への進化」プロジェクトの研究成果に基づいて、環境制御・データ駆動型の次世代型施設園芸生産や生産物の機能性物質の探求、高付加価値化に貢献するのみならず、国内外の一次産業のDXや産官学民連携を担うことができてくる人材の育成を目指す。希望学生を対象とする。地域枠での入学者は必修とする。

【科目】次世代農業科学コース：高知県の最先端農業IoT入門、次世代農業を感じてみよう！、データ農業をやってみよう！、IoT総論、スマート農業Ⅰ、Ⅱ、キャリア形成、インターンシップ（技術・技能）、インターンシップ（実践力）、指定専門科目（修了要件18単位）、AI・プログラミング実践コース：農工情報共創学、データサイエンス基礎数学Ⅰ、データサイエンス基礎数学Ⅱ、農科のためのプログラミング（修了要件30単位）

海洋資源科学科：総合的海洋管理教育プログラム（ICOM）

【概要】データサイエンスや一次産業DXを包括する総合的海洋管理のための知識・技能を修得させさせることにより、海を知り、使い、そして護るために、生物・非生物を含めた海洋資源をさまざまな側面から扱うことのできる人材を育成する。このため、海洋資源とそれを取り巻く海洋環境を適切に維持・管理していくための基礎的な知識や社会科学的知识を有する国際的な“総合的海洋管理”の視野を持った学生の教育を実施する。希望学生を対象とする。

【科目】海洋科学概論、海洋生命科学概論、海洋基礎生態学、水産資源学、海洋管理政策論、水産生物学、魚類学概論、水質学、海洋化学概論、海洋物理学概論、海洋情報化学、海洋ケミカルバイオロジー、バイオインフォマティクス、活性発現機構、国際・地域栄養食科学、合意形成学、沿岸域防災学（修了要件18単位）

次世代農業教育プログラム (Education Program for Smart Agriculture : EPSA)

わが国の SDGs や Society 5.0 の達成のためには、産業のデータ駆動型 DX を牽引できる人材が必要である。次世代農業教育プログラムは、「IoP (Internet of Plants) が導く Next 次世代型施設園芸農業への進化」プロジェクトにおいて得られた研究成果を学部教育に活用することにより、環境制御・データ駆動型の次世代型施設園芸生産や生産物の機能性物質の探求、高付加価値化に貢献するのみならず、国内外の一次産業の DX や産官学民連携を担うことができる人材の育成を設置の目的とする。

本プログラムは、共通教育及び専門科目から選定した科目群の履修により社会的関心の非常に高いスマート農業の生産から加工流通までを学ぶ「次世代農業科学コース」と、さらにデータ駆動型農業の理解・実践に必要な知識を高度に学ぶ「AI・プログラミング実践コース」から成る。両コースともに、3年次には修了し、修了証を授与することでコース修了者として就職活動できるように下記のようにカリキュラムを設計した。

カリキュラムでは、プログラムを段階的に履修できるように複数の科目群（プログラム入門・実習科目群、プログラム基盤科目群、AI・プログラミング科目群、専門科目群）を配置した。「次世代農業科学コース」では基礎的知識の修得を目的として、1年次に入門・実習科目群（共通教育科目）とプログラム基盤科目群の「スマート農業Ⅰ」を配置した。2年次以降は、プログラム基盤科目群、スマート農業の理解に必要な4つの専門科目群を順次履修し、総括として「IoP 総論」によりスマート農業の全体像を俯瞰的に理解する。「AI・プログラミング実践コース」では、2年次から AI・プログラミング科目群を履修し、人工知能技術を数学的に理解し、プログラミングにより農業の現場に応用できる知識と技能を身に付ける。さらに、基盤科目のキャリア形成論により卒業後の進路設計を考える機会を得ることができ、2つのインターンシップ科目（選択必修）により現場で必要な技能・技術の修得や、生産から6次産業化の実地での経験の取得が可能となる。

次世代農業教育プログラム		単位数	次世代農業 科学コース	AI・プログ ラミング実 践コース	共通・専門科 目の別	要卒
プログラム 入門・実 習科目群	高知の最先端農業 IoP 入門セミナー	2	必修		共通教育	要卒
	次世代農業を感じてみよう！IoP スプリングスクール	1	選択		共通教育	要卒
	データ農業をやってみよう！IoP サマースクール	2	選択	必修	共通教育	要卒
プログラ ム基盤科 目群	スマート農業Ⅰ	2	必修		専門	要卒
	スマート農業Ⅱ	2	必修		専門	要卒
	IoP 総論	1	必修		専門	要卒
	キャリア形成論	1	必修		専門	要卒
	インターンシップ（技術・技能）	1	選択必修		専門	要卒
	インターンシップ（実践力）	1	選択必修		専門	要卒
作物生産 系科目群	施設生産学概論 農業気象学 施設生産システム学 食料生産プロセス学 植物工場※ 園芸管理学 花卉園芸学 果樹園芸学 蔬菜園芸学 植物育種学 動物生理学	2	3科目選択必修		専門	要卒
植物・土壌 系科目群	無機化学※ 土壌学 土壌環境科学 植物栄養学 植物資源科学 植物生育環境学 植物感染病学※ 植物微生物相互作用論※	2	2科目選択必修		専門	要卒

食品・食料系科目群	食品化学 農産物利用学 食品分析学 食品衛生学※	2	2科目選択必修		専門	要卒
生物系科目群	化学生態学 保全生態学 昆虫学※ 動物生態学	2	1科目選択必修		専門	要卒
AI・プログラミング科目群	農工情報共創学	2		必修	専門	要卒
	データサイエンスの微分・積分	2		必修	専門	要卒
	データサイエンスの線形代数	2		必修	専門	要卒
	農科のためのA Iプログラミング	2		必修	専門	要卒

※「作物生産系科目群」、「植物・土壌系科目群」、「食品・食料系科目群」、「生物系科目群」のうち学科共通科目の「DS・DX科目に含まれない科目」

総合的海洋管理教育プログラム

(Integrated Coastal and Ocean Management : 略称 ICOM)

海洋資源科学科では、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学のいずれのコースにおいても、「海洋資源」及び「海洋環境」をキーワードとした分野横断的な教育を実施することで、海を「知り、使い、そして護る」ために、生物・非生物を含めた「海洋資源」を様々な側面から扱うことのできる人材育成を行います。このため、海洋資源とそれを取り巻く海洋環境を適切に維持・管理していくための基礎的な知識や社会科学的知識を有する国際的な「総合的海洋管理」の視野を持った学生の教育を実施します。

ICOM 教育プログラムは、「海洋科学概論」(海洋学全般、1年次第1学期)を必修科目(2単位)とし、選択必修科目群4科目から3科目(6単位)ならびに選択科目群の中から5科目10単位以上、合計9科目18単位以上を修得することで修了認定されます。選択科目群は4分野(海洋生物生産、海底資源環境、海洋生命、社会科学)の科目で構成されており、それぞれの分野から1科目以上、合計5科目以上を履修する必要があります。なお、本プログラムにおける選択必修・選択科目群の全科目は卒業に必要な専門科目86単位の一部となります。

選択必修科目群 (4科目中3科目を履修)

分野	科目名	履修開始年次	開講学期
海洋学一般	海洋生命科学概論	2	1
沿岸海洋	海洋基礎生態学	2	1
水産海洋	水産学概論	2	1
社会科学	海洋管理政策論	3	1

選択科目群 (4分野それぞれから1科目以上、合計5科目を履修)

分野	科目名	履修開始年次	開講学期
海洋生物生産	水産生物学	2 (生物) 3 (生命・海底)	2
	水質学	2	1
	魚類学概論	2 (生物・海底) 3 (生命)	1
海底資源環境	海洋化学概論	1	2
	海洋物理学概論	2	2
	海洋情報化学	2	2
海洋生命	海洋ケミカルバイオロジー	2 (生命・海底) 3 (生物)	2
	バイオインフォマティクス入門	3	1
	活性発現機構	3	1
社会科学	国際・地域栄養食料学	2	1
	合意形成学	2 (生命・海底) 3 (生物)	2
	沿岸域防災学	1	2

生物：海洋生物生産学コース； 海底：海底資源環境学コース； 生命：海洋生命科学コース

農林資源科学科の特色と教育課程



入学者選抜

○フィールド科学コース(定員90名,うち地域枠10名)
 一般選抜(前期): 45名
 一般選抜(後期): 15名
 総合型選抜Ⅰ: 15名
 総合型選抜Ⅱ: 15名
 学校推薦型選抜Ⅰ: 15名
 (高知県で5名)
 (高知県で専門推薦5名, 全国で専門推薦3名)

○農芸化学コース(定員45名,うち地域枠5名)
 一般選抜(前期): 35名
 一般選抜(後期): 5名
 学校推薦型選抜Ⅰ: 5名
 (高知県で5名)

○3年次編入学試験:
 2名(高知県・農業分野)

1年次	2年次	3年次	4年次
1学期	1学期	1学期	1学期
2学期	2学期	2学期	2学期

フィールド科学コース

共通: 暖地農学基礎実習、環境保全基礎実習、中山間地域実習、自然環境学、外国書購読Ⅰ、Ⅱなど(計8科目)
 暖地農学: 暖地フィールド科学実習Ⅰ、Ⅱ、農政学、動物生産学概論、熱帯農学概論、作物学、農業経営学など(計11科目)
 環境保全: 森林生産技術実習Ⅰ、森林生態・造林学、水資源学、農業化学、自然環境学実験など(計26科目)

農芸化学コース

農芸化学概論、基礎分析化学、基礎有機化学、生物化学、植物感染病学、農芸化学基礎実験Ⅰ～Ⅳ、応用微生物学、代謝生化学、構造解析化学、微生物遺伝子工学、基礎外書購読Ⅰ、Ⅱなど(計33科目)

学部・学科共通

(学部共通): 生物学概論、地球科学概論、物理学概論、地学基礎実験、生物学基礎実験、化学基礎実験(計9科目)
 (学科共通): 暖地農学概論、植物工場、現代応用生物科学(計3科目)

DS・DX AI・プログラミング科目

データサイエンスの線形代数

データサイエンスの微分・積分

農料のためのAIプログラミング

森林情報モニタリング論

DS・DX発展科目 学科共通

DS・DX専門科目 学科共通・分野横断

暖地農学分野: 施設生産学概論、農業気象学、植物育種学、施設生産システム学、食料生産プロセス学、園芸管理学、花卉園芸学、果樹園芸学、蔬菜園芸学、動物生理学

環境保全分野: 動物生態学、化学生態学、保全生態学、エンジニアリング・マネジメント、地域環境デザイン学、森林作業システム学、森林資源循環利用学、森林生態・造林学

農芸化学分野: 土壌学、植物栄養学、植物資源科学、植物生育環境学、土壌環境科学、食品化学、農産物利用学、食品分析学

1次産業DX概論*

スマート農業Ⅰ*

スマート農業Ⅱ*

DS・DX基礎科目 学部共通

経営・マーケティング科目 学科共通

さわってわかるAI講座～基礎理論からクラウドサービスを使った実践まで～

大学数学入門

基礎統計学*

農業経営革新**

地域農業最適化論**

農企業マーケティング論**

知的財産概論**

DXとビジネス創出

データ活用のためのプログラミング入門

次世代農業を感じてみよう!IoTスプレイングスクール

インターンシップ(技術・技能)

インターンシップ(実践力)

キャリア形成論*

高知の最先端農業IoT入門セミナー

情報処理*

フィールドサイエンス実習*

データ活用のためのプログラミング入門

次世代農業を感じてみよう!IoTスプレイングスクール

キャリア形成論*

高知の最先端農業IoT入門セミナー

情報処理*

フィールドサイエンス実習*

データ活用のためのプログラミング入門

次世代農業を感じてみよう!IoTスプレイングスクール

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

高知の最先端農業IoT入門セミナー

情報処理*

フィールドサイエンス実習*

データ活用のためのプログラミング入門

次世代農業を感じてみよう!IoTスプレイングスクール

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

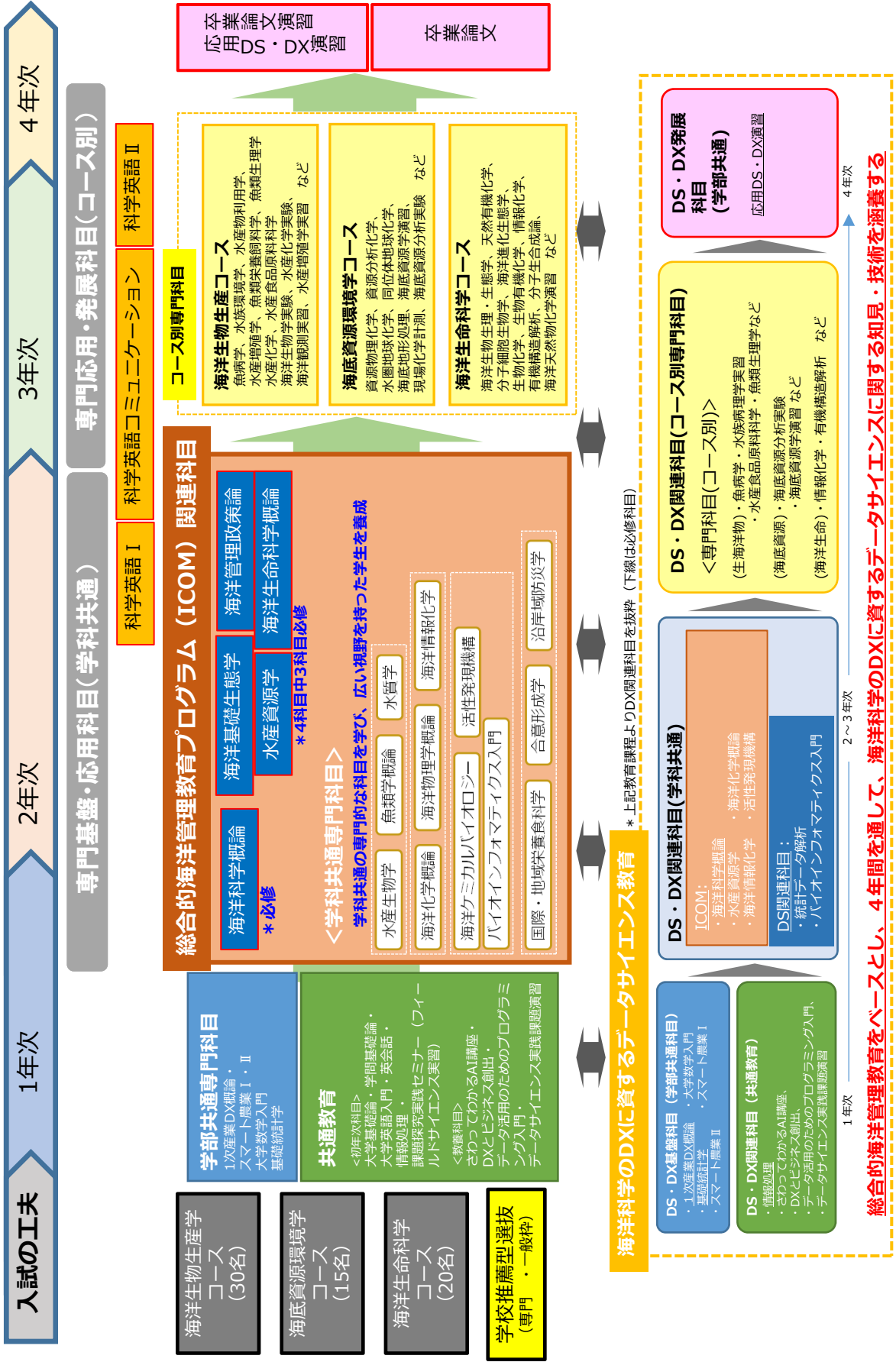
キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

キャリア形成論*

海洋資源科学学科の特色と教育課程



農林資源科学科 授業時間割

曜日 時間	1年生		2年生		3年生		4年生	
	フィールド科学コース 環境保全分野	農芸化学コース	フィールド科学コース 環境保全分野	農芸化学コース	フィールド科学コース 環境保全分野	農芸化学コース	フィールド科学コース 環境保全分野	農芸化学コース
1		農政学		☆食品化学		土壌環境科学		
2		蔬菜園芸学	森林生態・造林学	森林生態・造林学	保全生物学 農業経営革新論	微生物遺伝子工学 農業経営革新論		
3				微生物学入門 無機化学	農企業マーケティング論 植物防疫ミクス解析学	農企業マーケティング論 植物防疫ミクス解析学		
4		植物遺伝学				測量学・実習(通年)		
5			◎スマート農業 II					
1		地球科学概論 熱帯農業概論	地球科学概論	☆基礎分析化学	☆外国語講読 I	地球科学概論		
2			◎基礎統計学		化学学生理学 森林土本学	化学学生理学 森林土本学		
3		大学英語入門 I						
4						環境水質学・実験		
5								
1			農業気象学	森林資源循環利用学	知的財産概論	知的財産概論		
2		外国語科目 A	土壌学	森林マホシメント論	植物生育環境学	植物生育環境学		
3		☆生物化学概論	☆暖地農業概論	暖地農業学概論				
4		☆農芸化学概論	データサイエンスの概分・積分 科学・技術の倫理 データサイエンスの微分・積分	データサイエンスの微分・積分	暖地フィールド科学実習 II	地理空間情報学・演習		
5		通知の最先端講義のPレセナー						
1		◎一次産業DX概論	農山村資源利用論			農科のためのAIプログラミング		
2		数理・データサイエンス・AI科目	△物理学概論	物理学概論 植物資源科学		森林経済学		
3		英語 I	★暖地農業基礎実習	★環境保全基礎実習	動物生理学	動物生理学		生物環境分析学
4					動物生態学	動物生態学・実習学		
5					植物工場	植物工場		
1			水資源学	☆基礎有機化学	家畜管理学	採薬化学		
2		外国語科目 A	☆自然環境学	☆植物感染病学		水産物利用学		
3		大学基礎論						
4			応用力学・演習 I			水理学・実験		
5			魚類学概論			本邦利用学実 験		
集中講義		課題球求実践セミナー(フィールドサイエンス実習)	データ農業をやってみようOPセミナー 物理学基礎実験 地学基礎実験 生物学基礎実験 基礎化学実験 インターンシップ(技術・技能)(通年) インターンシップ(実践・技能)(通年) インターンシップ(実践・技能)(通年) インターンシップ(実践・技能)(通年) 中山間地域実習(通年) 森林生産技術実習 I (通年)	自然環境科学実験 農業化学 樹木学実習 地域協働インターンシップ 森林生産技術実習 II (通年)	農芸化学基礎実験 III 農芸化学基礎実験 IV ☆基礎外書講読 II 構造解析化学 生物有機化学 食品分析学	◎応用DS-DX演習 ◎卒業論文(通年)	☆専門外書講読 II ☆農芸化学応用実験 II	

◎学科必修科目 ☆コア必修 ★分科必修 △コア選択必修

海洋資源科学科 授業時間割

第1学期

曜日	時限	1年生			2年生			3年生			4年生		
		海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース
月	1		国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学	国際・地域栄養食科学
	2		水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学	水質学
	3												
	4												
	5		スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ	スマート農業Ⅱ
火	1		地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論	地球科学概論
	2		生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学
	3		大学英語入門Ⅰ	◎基礎統計学									
	4												
	5												
水	1												
	2		外国語科目A	△分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学	分析化学概論 土壌学
	3		生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論	生物学概論
	4												
	5												
木	1		◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論	◎一次産業DX概論
	2		数理・データサイエンス・AI科目A	物理化学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学	物理学概論 水産生物化学 △資源物理学
	3			△動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論	動物生物学概論
	4												
	5												
金	1												
	2		外国語科目A	◎魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ	魚類学概論 天然物有機化学Ⅰ
	3		大学基礎論	△魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学	魚病学
	4												
	5												
集中講義			課題探求セミナー(フィールドサイエンス実習) 数理・データサイエンス・AI科目B ☆海洋科学概論 物理学基礎実験	△基礎化学実験 地学基礎実験 生物学基礎実験 ★水産生物化学概論 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論	基礎化学実験 ★地学基礎実験 生物学基礎実験 海洋生命科学概論

◎学部必修科目 ☆学科必修科目 ★コース必修科目 △コース選択必修科目

第2学期

曜日	時間	1年生			2年生			3年生			4年生		
		海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース	海洋生物生産学コース	海洋生命科学コース
月	1												
月	2												
月	3				△同位体地球化学								
月	4												
月	5	スマート農業 I											
火	1	スマート農業 I											
火	2	外国語科目B											
火	3	大学英語入門II											
火	4	化学概論	★化学概論	化学概論									
火	5												
水	1		★科学英語 I	★科学英語 I	★科学英語 I								
水	2		海洋情報化学 水産生物学	海洋情報化学 水産生物学	海洋情報化学 水産生物学								
水	3		学問基礎論										
水	4												
水	5												
木	1	沿岸域防災学		沿岸域防災学	△資源物質化学								
木	2			魚類生理学	△水圏地球化学 天然物有機化学 II	天然物有機化学 II							
木	3												
木	4												
木	5												
金	1												
金	2												
金	3			海洋生物生理・生態学									
金	4	大学数学入門		大学数学入門									
金	5												
集中講義		海洋化学概論 化学基礎実験	★海洋化学概論 ★化学基礎実験	海洋化学概論 化学基礎実験	★海洋微生物学実験 ★水産環境学実験 ★水産化学実験 海洋物理学概論	★海洋生物・生命科学演習 ★海洋天然物化学演習 ★海洋ケミカルバイオロジー 海洋物理学概論 海洋生命科学特論 I 合意形成学	資源応用学特論 先端科学特論 海洋資源学 海洋物理学概論 合意形成学 海洋資源学特論	★海洋微生物学実験 ★水産環境学実験 ★水産化学実験 海洋物理学概論	資源物質化学 ★科学英語 II 天然物有機化学 II 資源分析化学 水産化学 環境微生物学	海洋ケミカルバイオロジー 合意形成学 科学コミュニケーション論 II △水産増殖学実習(通年) △水族館病理学実習(通年)	海洋ケミカルバイオロジー 資源地質探検 科学コミュニケーション論 II 海洋生命科学実験 科学コミュニケーション論 II	洋書講読 海洋生命科学実験	◎卒業論文演習 ◎卒業論文(通年)

◎学部必修科目 ☆学科必修 ★コース必修 △コース選択必修科目

農林資源科学科「フィールド科学コース・暖地農学分野」履修モデル



専 門 科 目	卒業要件単位数：124単位				4 年次		単位合計
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	第 1 学期	第 2 学期	
フ イ ルド 科 学 コー ス	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	0 単位
	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	
環 境 保 全 科 目	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	
共 通 科 目	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	
学 科 共 通 科 目	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	27 単位
	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	

D S D X 科 目	【必修の考え方】 各分野の専門科目の履修を通じて、データサイエンスと一次産業のDXに必要な動物、微生物の生命現象、生物生産の生産技術・生産環境、これらの取り巻く土壌・気象・生物環境を学ぶとともに環境保全・修繕や持続可能な農業の実現、さらには生産物の付加価値向上・有効利用に向けて多面的に理解・考察を深化させる科目を履修する。	農業気象学 ②	植物生態・造林学 ②	植物学種学 ②	化学生態学 ② 動物生態学 ② 保全生態学 ② 植物生育環境学 ②	地域環境デザイン学 ③ 森林作業システム学 ②	0単位	0単位	34単位
		0単位	6単位	4単位	11単位	7単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
共 通 教 育 科 目	【必修の考え方】 一次産業DXの必要性、統計学を学ぶための数学手法、データサイエンス分野に必要な統計手法、データサイエンス、スマート農業に関する生産・加工・流通について必要な知識を修得するための科目を履修する。	基礎統計学 ② スマート農業 II ②	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位
		0単位	4単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	2単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
共 通 教 育 科 目	【必修の考え方】 基礎的な自然科学の知識を身に付けるための科目を履修する。	生物学期論 ②	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位	
		0単位	2単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
共 通 教 育 科 目	【必修の考え方】 地域社会が抱える問題について、各学科における専門的知識の活用に加え、それとは異なる視点から、あるいは、より実践的視点を身に付けるための科目を履修する。	教養科目⑧ 外国語科目② 初年次（導入）科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
1 学 期 履 修 単 位 数	【必修の考え方】 DS・DXに関する基礎的な応用のための知識や技術を修得する科目を履修する。	DS・DX科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	34単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
1 学 期 履 修 単 位 数	【必修の考え方】 一次産業DXの必要性、統計学を学ぶための数学手法、データサイエンス分野に必要な統計手法、データサイエンス、スマート農業に関する生産・加工・流通について必要な知識を修得するための科目を履修する。	基礎統計学 ② スマート農業 II ②	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位	
		0単位	4単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	2単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
1 学 期 履 修 単 位 数	【必修の考え方】 基礎的な自然科学の知識を身に付けるための科目を履修する。	生物学期論 ②	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位	
		0単位	2単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
1 学 期 履 修 単 位 数	【必修の考え方】 地域社会が抱える問題について、各学科における専門的知識の活用に加え、それとは異なる視点から、あるいは、より実践的視点を身に付けるための科目を履修する。	教養科目⑧ 外国語科目② 初年次（導入）科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	20単位	
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位
		0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位		0単位

海洋資源科学科「海洋生物生産学コース」履修モデル



卒業要件単位数：124単位
 専門教育科目（専門必修科目：38単位、専門選択科目：48単位、合計：86単位以上修得）
 共通教育科目（初年次（導入）科目：14単位、外国語科目：4単位、教養科目：20単位合計：38単位以上修得）

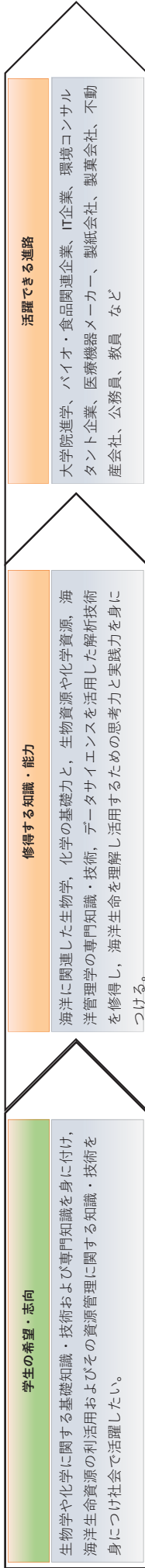
専 門 科 目	年次 学期	2年次		3年次		4年次		単位合計
		第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	
海洋生物生産学コース	必修科目	魚病学② 水産生物学実験①	海洋微生物学実験① 水族環境学実験① 水産化学実験①	水族環境学② 魚類栄養科学② 水産物利用学② 水族栄養学実験① 分子生物学実験① 水産増殖学② 藻類増殖学② 魚類防疫学② 水産物品質管理学② 海洋観測実習① 水産製造学実習① 水産増殖学実習① 水族病理学実習①				32単位
	【履修の考え方】 専門分野をより高度に深く学習し、応用力・創造性に富み、柔軟な思考力・課題解決能力を身につけるための科目を履修する。	環境微生物工学② 魚類生理学②		水産食品原料学②				
学 科 共 通 科 目	必修科目		科学英語 ① 水産化学②		科学英語Ⅱ①			34単位
	【履修の考え方】 海洋資源科学類の専攻の専門科目を履修させる。コース選択的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得する科目を履修する。	3単位（うち集中1単位）	7単位	20単位	2単位	0単位	0単位	
I C O M 科 目	基礎科目	海洋科学概論②						0単位
	必修科目		3単位	6単位	0単位	1単位	0単位	
基礎科目	必修科目		分析化学概論② 微生物学概論② 水産物化学②					0単位
	必修科目		魚病学概論② 海洋基礎生態学② 水産学②					
応用科目	必修科目		国際・地域栄養学②					0単位
	必修科目		水産生物学②					
応用科目	必修科目							0単位
	必修科目							
【履修の考え方】 データサイエンスや一次産業DXをも包括する総合的 海洋管理のための知識・技能を修得する科目を履修す る。	必修科目							0単位
	必修科目							
		2単位	4単位	10単位	2単位	4単位（うち集中2単位）	0単位	

海洋資源科学科「海底資源環境学コース」履修モデル



専 門 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		単 位 合 計
	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	
卒業要件単位数：124単位 専門必修科目：30単位、専門選択科目：56単位、合計：86単位以上修得 共通教育科目（初年次（導入）科目：14単位、外国語科目：4単位、教養科目：20単位合計：38単位以上修得）									
	必修科目 <small>【履修の考え方】 専門分野をより高度に深く学習し、応用力・創造性に富み、柔軟な思考力・課題解決能力を身につけるための科目を選択する。</small>			資源物理化学② 資源無機化学②	資源分析化学② 水圏地球化学② 資源物質化学② 同位体地球化学② 資源応用学特論② 先端科学特論② 海底資源学②	海底資源学演習② 海底資源分析実験② 現場化学計測②	海底資源科学ゼミナール② 海洋環境アセスメント化学② 流体力学② 資源地質巡検①		
共通科目 <small>【履修の考え方】 海洋資源科学分野の専門科目を受講させる。コース横断的な受講が可能であり、専門性を高めることも幅広い知識を修得する科目を選択する。</small>			分析化学概論②	科学英語Ⅰ① 科学英語Ⅱ① 科学英語コミュニケーション①	14単位 科学英語Ⅰ①	7単位 科学英語Ⅱ①	0単位	0単位	39単位
I C O M 科 目	基礎科目 (DS・DX)	0単位 海洋科学概論②	2単位 水産学概論②	1単位 海洋物理学概論②	1単位 水産学概論②		0単位	0単位	
	基礎科目		魚類学概論② 海洋基礎生態学②						
	応用科目 (DS・DX)			海洋情報化学②					
	応用科目			合意形成学②					
<small>【履修の考え方】 データサイエンスや一次産業DXをも含む総合的 海洋管理のための知識・技能を修得する科目を選択する。</small>	2単位	2単位	6単位	6単位	4単位	0単位	0単位	0単位	25単位

海洋資源科学科「海洋生命科学コース」履修モデル



専 門 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位 合 計
	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	
海洋生命科学コース 【履修の考え方】 専門分野をより高度に深く学習し、応用力・創造性に富み、柔軟な思考力・課題解決能力を身につけるための科目を履修する。	0単位	2単位	9単位	11単位	12単位	3単位	2単位	0単位	39単位
			生物化学② 天然物有機化学Ⅰ② 初習海洋生命薬品① 微生物学入門② 海洋進化生態学②	海洋生物・生命科学演習① 海洋天然物化学演習① 海洋生命科学特論② 分子細胞生物学② 天然物有機化学Ⅱ② 海洋生命英語ゼミナール①	微生物学実験① 有機化学実験Ⅰ① 有機化学実験Ⅱ① 分子細胞生物学実験① 薬理増殖学② 生物有機化学② 機器分析学② 分子生成成論① 有機構造解析①	洋書講読① 海洋生命科学実験① 情報化学①			
共通科目 【履修の考え方】 海洋資源科学幅広い専門科目を受講させる。コース輪廻的な受講が可能であり、専門性を高めるとともに幅広い知識を修得する科目を履修する。	0単位	2単位	2単位	3単位	3単位	2単位	0単位	0単位	31単位
			海洋化学概論② 微生物学概論②	科学英語Ⅰ① 水産化学②	科学英語Ⅱ① 科学英語コミュニケーション① 統計データ解析②				
基礎科目 (DS・DX)	0単位	0単位	2単位	3単位	2単位	2単位	0単位	0単位	0単位
			海洋科学概論② 海洋化学概論②	海洋ケミカルバイオロジー②	水産学概論②				
基礎科目			2単位	2単位	2単位	2単位	0単位	0単位	0単位
			海洋基礎生態学②	魚類学概論②					
応用科目 (DS・DX)			2単位	4単位	8単位	0単位	0単位	0単位	0単位
			海洋生命科学概論②	バイオインフォマティクス入門② 活性発現機構②					
応用科目	2単位	2単位	6単位	4単位	8単位	0単位	0単位	0単位	31単位
			国際・地域栄養食料科学②	合意形成学②					
【履修の考え方】 データサイエンスや一次産業DXをも包括する総合的海洋管理のための知識・技能を修得する科目を履修する。									

第3年次編入学生の単位認定について（案）

令和 年 月 日
農林海洋科学部教授会

高知大学農林海洋科学部規則第23条に基づき、第3年次編入学生の単位認定について、次のとおり申し合わせる。

1. 第3年次編入学生については、入学を許可された年次の学生に適用している高知大学農林海洋科学部履修規則（以下「履修規則」という。）を適用する。
2. 第3年次編入学生が入学前に他大学等で修得した単位の単位認定にあたっては、入学する学科の学務委員である教員1名及び学科長が認定案を作成し、学務委員会の審査を経て教授会で認定するものとする。
3. 第3年次編入学生が入学前に他大学等で修得した単位の認定を受けようとするときは、所定の申請書類等を学部が定める期日までに提出しなければならない。なお、高等専門学校の科目について認定を受けようとする場合は、認定願に当該科目を修得した学年を明記し、1年次、2年次、3年次の科目については、認定案を作成した教員が理由書を作成し添付するものとする。
4. 認定単位数は、入学前に取得した単位数を超えないものとする。
5. 卒業要件単位として認定できる単位数は、原則として、88単位を上限とし、それを超えて単位を認定する場合には、理由書を添付するものとする。
6. 各科目区分における単位認定については、次のとおりとする。
 - (1) 初年次科目、教養科目
編入学前に他大学等で修得した単位のうち、初年次科目及び教養科目については、教育目標等を考慮に入れ検討を行ったうえで、初年次科目12単位、教養科目28単位（合計40単位）を上限に履修したものとみなし、科目区分毎に一括認定を行う。なお、外国語分野4単位、地域関連科目4単位については、履修したものとみなす。また、教育職員免許状取得希望者が教育職員免許状取得に係る科目を履修している場合は、科目別に認定することとし、全学教職委員会に認定の依頼を行うものとする。
 - (2) 専門科目
編入学前に他大学等で修得した単位のうち、農林海洋科学部の専門科目を修得したと

みなし得る科目については、履修規則別表に規定する科目に読み替えて認定を行う。

(3) 教育職員免許状取得に係る科目

①「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」「教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）」

- ・全学教職委員会に科目別に認定を依頼する。
- ・単位を認定した科目のうち、共通教育科目以外のものは、卒業要件単位に含めない。

②「教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）」

- ・教授会において単位を認定した科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）」に相当する科目については、当該科目として修得したものとみなす。

③免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

- ・全学教職委員会に科目別に認定を依頼する。

7. 単位を認定した科目についても、入学する学科の長が学生にとって有益であると判断した場合は、聴講の機会を与えるものとする。

8. この申合せに定めるもののほか、第 3 年次編入学生の単位認定に関して必要な事項は、教授会の議を経て学部長が定める。

附 則

この申合せは、令和 年 月 日から施行し、令和 5 年度の編入学生から適用する。

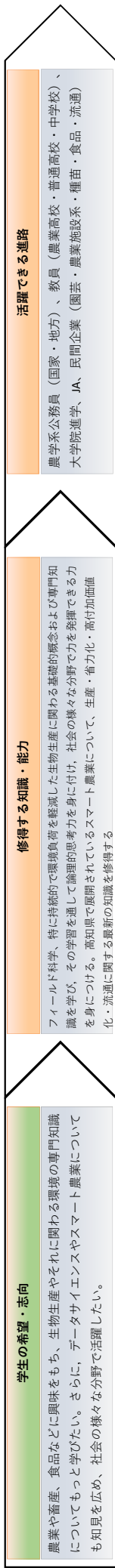
3年次編入学生に係る単位読み替え表

	履修年次	高知大学農林海洋科学部 農林資源科学科	他大学 農学系学部・学科 農業大学校 園芸系学科 農業・園芸系 専修学校 など	単位数
必修	1	生物学概論	植物生理Ⅰ 等 植物生理Ⅱ 等	1 1
必修	2	暖地農学概論	農業基礎 等	2
必修	1・2	化学概論	化学 等	2
	2	作物学	生物工学 等 作物概論 等	1 1
	2	農業経営学	農業経営学 等 農業簿記Ⅱ 等	1 1
	3	農政学	農業施策 等 農業法人 等	1 1
	3	土壌学	土壌肥料学 等	2
	3	植物感染病学	植物病理学Ⅰ 等 植物病理学Ⅱ 等	1 1
	3	園芸管理学	園芸各論のうち2単位 等	2
	3	施設生産システム学	園芸施設 等 スマート農業 等	1 1
	3	食品流通論	園芸流通 等 園芸流通研修のうち1単位 等	1 1
	3	農薬化学	農薬概論 等 IPM 等	1 1
	3	環境保全農業論	環境保全型農業Ⅰ 等 環境保全型農業Ⅱ 等	1 1
必修	2	インターンシップ(技術・技能)	先進農家等留学研修のうち1単位 等	1
	2	インターンシップ(実践力)	先進農家等留学研修のうち1単位 等	1
	2	中山間地域実習	先進農家等留学研修のうち2単位 等	2
	2	暖地農学基礎実習	実習系科目のうち2単位 等	2
必修	3	キャリア形成論	進路別選択のうち1単位 等	1
				33

		共通教育科目 初年次(導入)科目の授業 題目	教養科目・実習系科目のうち2単位 等	14
		共通教育科目 外国語科目・教養科目(自 然分野科目の授業題目6単位を含む)	実習系科目(上記以外) 等	24

読み替え合計	71
--------	----

農林資源科学科「フィールド科学コース・暖地農学分野・EPSA」履修モデル（3年次編入学生）



専攻	卒業要件単位数：124単位				4年次		単位合計
	1年次	2年次	3年次	4年次	第1学期	第2学期	
専門科目	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 暖地農学分野に特化した暖地農学分野をより高度に深く学習し、高い専門的知識を修得するための科目を履修する。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 森林、農業環境、自然環境の保全や修復に深く学習し、高い専門的知識を修得するための科目を履修する。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
共通科目	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 専門分野をより高度に深く学習し、応用力・創造性に富み、柔軟な思考力・課題解決能力を身につけるための科目を履修する。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
学 科 共 通 科 目	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 県内の試験研究機関や企業の研究機関等の体験学習により、技術普及、農業振興、農家や農業法人の運営等の知識、技能を身に付けることにも、能力・態度・資格を累積し、自己実現を図る手法を身に付けるための科目を履修する。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
経営・マーケティング科目	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 6次産業化や農業経済・農業経営にまで専門科目を拡大し、地域産業を後押しできる強固の素養を涵養する。さらには、知的財産やそれらを保護するためにの特許権や商標権などの知的財産権についての基礎的知識を修得させる。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
共通科目	必修科目	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位
	【履修の考え方】 農学に関する一般的な知識を修得するための科目及び同国の農学教育の質の向上と相互補完の強化を図る目的で設立した「農学コンソーシアム四国」の合同授業科目を履修する。	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位

インターンシップ（技術・技能）・インターンシップ（実践力）受入機関一覧

①インターンシップ（技術・技能）

公設試験研究機関	住所
高知県農業技術センター	高知県南国市廿枝 1100
高知県農業技術センター 果樹試験場	高知県高知市朝倉丁 268
高知県農業技術センター 林業試験場	高知県吾川郡仁淀川町森 2792
高知県畜産試験場	高知県高岡郡佐川町中組 1247 番地

「IoT（Internet of Plants）が導く『Next 次世代型施設園芸農業』への進化」プロジェクト関連の高知県内企業	住所
日之出産業株式会社	高知県南国市国分 1309 番地
有限会社イチカワ	高知県香南市野市町西野 3 5 番地 3
株式会社土佐電子	高知県土佐市高岡町乙 61-10
株式会社トリムエレクトリックマシナリー	高知県南国市螢が丘 1 丁目 5 番地 2
株式会社オサシ・テクノス	高知県高知市本宮町 65 番地 3
株式会社シティネット	高知県南国市螢が丘 1 丁目 1 番地 1
株式会社ソフトビレッジ	高知市福井町 2216 番地 75
株式会社高知電子計算センター	高知県高知市本町四丁目 1 番 1 6 号
パシフィックソフトウェア開発 株式会社	高知県高知市本宮町 105 番地 22
株式会社 SHIFT PLUS	高知県高知市駅前町 1-8
宮地電機株式会社	高知県高知市本町 3-3-1
株式会社高知前川種苗	高知県高知市相生町 6 番 3 号
株式会社 丸昇農材	高知県須崎市西町 2 丁目 9 番 26 号
株式会社 太陽	高知県高知市布師田 3950
株式会社エレパ	高知県高知市南御座 2 番 12 号
株式会社高知システムズ	高知県高知市本町 4-1-16 高知電気ビル
株式会社アグリベース四万十	高知県高知市朝倉己 1175-19
四国情報管理センター株式会社	高知県高知市一ツ橋町 1-36

②インターンシップ（実践力）

会社名・団体名	住所
高知県農業協同組合中央会	高知県高知市北御座 2-27
高知県農業協同組合総括本部	高知県高知市五台山 5015-1
高知県農業協同組合購買事業本部	高知県高知市五台山 5015-1
高知県農業協同組合営農販売事業本部	高知県高知市仁井田 4706-4
高知県農業協同組合信用共済事業本部	高知県高知市北御座 2-27
株式会社 とさのさと (JA 高知県とさのさと支所)	高知県高知市北御座 10-46
高知県農業振興部 安芸農業振興センター	高知県安芸市矢ノ丸 1 丁目 4 番 36 号安芸 総合庁舎
高知県農業振興部 中央東農業振興センター	高知県香美市土佐山田町加茂 777 番地 香 美農林合同庁舎
高知県農業振興部 中央西農業振興センター	高知県土佐市高岡町乙 3229 番地土佐合同 庁舎
高知県農業振興部 須崎農業振興センター	高知県須崎市西古市町 1 番 24 号 須崎総 合庁舎
高知県農業振興部 幡多農業振興センター	高知県四万十市古津賀 4 丁目 61 番 中村 合同庁舎
有限会社 川淵牧場	高知県高知市針木西 1323
有限会社 おおぐし農園	高知県宿毛市平田町戸内字扇 3661-52
有限会社 大地と自然の恵み	高知県香南市香北町葦生野 434
高橋農園（高橋洋輔）	高知県高知市春野町南ヶ丘 1-1-1 セジュ ールサアⅢ102
有限会社 堀 おかざき農園	高知県高知市春野町東諸木 1445
宮崎農園	高知県安芸市赤野乙 1833

地域協働インターンシップ受入機関一覧

会社名・団体名	住所
農林水産省中国四国農政局	岡山市北区下石井 1 丁目 4 番 1 号
農林水産省中国四国農政局土地改良技術事務所	岡山市北区桑田町 1 番 36 号 (岡山地方合同庁舎)
農林水産省中国四国農政局吉井川農業水利事業所	岡山市北区桑田町 1 番 36 号 (岡山地方合同庁舎)
農林水産省中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所	香川県丸亀市飯山町真時 677-1
農林水産省中国四国農政局高知南国農地整備事業所	高知県香美市土佐山田町旭町 1 丁目 4 番 10 号 土佐山田合同庁舎 3 階
国土交通省四国地方整備局企画部	高松市サンポート 3-33
国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所	高知市六泉寺町 96-7
国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所	四万十市右山 2033-14
国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所	高知市江陽町 2-2
国土交通省四国地方整備局渡川ダム統合管理事務所	宿毛市平田町黒川字櫛ヶ崎山 5312-48
国土交通省四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所	高知市種崎 874
高知県農業振興部中央東農業振興センター	香美市土佐山田町加茂 777 番地
水資源機構吉野川本部	高松市天神前 10-1
農研機構 (農村工学研究部門)	つくば市観音第 2-1-6
高知市上下水道局下水道整備課	高知市棧橋通 3 丁目 31-11
水土里ネット高知	高知市上町 2 丁目 9 番 12 号
香川県農政水産部土地改良課	高松市番町四丁目 1-10
岡山県農林水産事業部	岡山市北区弓之町 6-1
兵庫県 淡路県民局洲本土地改良事務所	兵庫県洲本市塩屋 2-4-5
愛媛県愛南土木事務所	愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420
三祐コンサルタンツ	名古屋市東区代官町 35 番 16 号 第一富士ビル 4F
構営技術コンサルタント	高知市本宮町 105-23 ソフトウェア団地内
総合開発	観音寺市瀬戸町 2-14-16
大旺新洋	高知市仁井田 1625 番地 2

国立大学法人高知大学職員の定年規則

平成16年4月1日
規則第24号

最終改正 平成26年3月26日規則第101号

(目的)

第1条 この規則は、国立大学法人高知大学職員就業規則（以下「就業規則」という。）第19条に基づき、職員の定年について、必要な事項を定める。

(定年)

第2条 職員の定年は、次の各号に定める年齢とする。

- (1) 大学教員 満65歳
- (2) 用務員、守衛等専ら労務に従事する職員 満63歳
- (3) 前2号に掲げる以外の職員 満60歳

2 定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。

3 前2項の規定は、雇用の期間を定めて雇用された職員には適用しない。

(定年扱いの退職)

第3条 前条第1項第1号の規定にかかわらず、高知大学に在職していた大学教員から引き続き国立大学法人高知大学の教員となった者のうち、この規則の施行日の前日に高知大学教員定年規則において定年年齢が満63歳と規定されていた大学教員は、次条に定めるところにより、満63歳に達した日以後における最初の3月31日で退職することができる。

2 前項の規定による退職は、就業規則第17条第1項第2号に定める定年による退職として取り扱う。

(定年扱いの退職の手続)

第4条 前条に定める定年扱いの退職を希望する者は、文書をもって学長にその旨を申し出るものとする。

2 前項の申出があったときは、学長はこれを承認し、本人へ通知する。

3 前項の通知を受けた後は、これを変更することはできない。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成 19 年 3 月 31 日に国立大学法人高知大学の教務職員であった者が、平成 19 年 4 月 1 日に助手となった場合の定年年齢については、第 2 条第 1 項第 1 号の規定にかかわらず、満 60 歳とする。

附 則（平成 19 年 3 月 12 日規則第 96 号）

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 26 日規則第 101 号）

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。